

福島県文化財調査報告書 第551集

福島県内遺跡分布調査報告 28

2022年1月

福島県教育委員会

福島県内遺跡分布調査報告 28

序 文

福島県教育委員会では、開発事業等が行われる前に分布調査及び試掘・確認調査を実施し、関係機関との協議をすることにより、埋蔵文化財の保護に努めています。

令和2年度は、6市4町2村の区域内で計画された5事業の分布調査及び試掘・確認調査を実施しました。中通り地方では、郡山市において阿武隈川上流大規模災害対策事業予定地の1箇所を試掘・確認調査を実施しました。会津地方では、地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設に関連して下郷町において1箇所、一般国道49号会津防災事業に関連して柳津町において1箇所、只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)に関連して金山町において1箇所の試掘・確認調査を実施しました。

試掘・確認調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所では埋蔵文化財を確認したほか、埋蔵文化財を確認した1箇所を新たに埋蔵文化財包蔵地として周知し、調査成果を埋蔵文化財保護のための協議資料とすることができました。

この報告書が、埋蔵文化財保護のための資料にとどまらず、地域の歴史を解明するための基礎資料となり、広く県民の皆様にご活用いただければ幸いです。

最後に、この調査に御協力いただいた当該市町村教育委員会をはじめとする関係機関、関係各位に深く感謝の意を表します。

令和4年1月

福島県教育委員会

教育長 鈴木 淳一

緒 言










- 1 本書は、令和2年度に実施した地域高規格道路(会津縦貫南道路)、一般国道49号会津防災事業、只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)、阿武隈川上流大規模災害対策事業(御代田・徳定地区)の各事業予定地内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地(試掘調査により遺跡の存否を確認する地点)の試掘・確認調査、並びに阿武隈川上流大規模災害対策事業及び東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業の分布調査の報告書である。
- 2 この調査は、埋蔵文化財緊急調査費国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。
- 3 福島県教育委員会は、調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、ともに実施した。
- 4 福島県教育委員会は、この調査にあたり下記の職員を配置した。
専門文化財主査 櫻田 克史
文化財主査 渡邊 貴勝
- 5 公益財団法人福島県文化振興財団は、下記の職員を配置して調査を実施した。
専門文化財主査 國井 秀紀
- 6 本書は、福島県教育庁文化財課職員及び公益財団法人福島県文化振興財団(遺跡調査部県内遺跡分布調査担当)の職員が執筆した。
- 7 調査にあたっては、地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。
下郷町教育委員会 柳津町教育委員会 金山町教育委員会 郡山市教育委員会
福島県土木部(会津若松建設事務所) 東北電力ネットワーク株式会社
国土交通省東北地方整備局(郡山国道事務所、福島河川国道事務所)
- 8 事業名称の長いものは、一部省略した表現を用いた。
- 9 本書に使用した調査記録は、福島県教育委員会が保管している。

用 例

1 本書における用例は次のとおりである。

- (1) 周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/25,000の地形図(湯野上・柳津・会津横田・郡山西部・郡山・三春)及び1/50,000の地形図(保原・相馬中村・川俣・常業・浪江)を、事業の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/200,000の地形図(新潟・日光・福島・白河)を複製したものを使用している。
- (2) トレンチ配置図は、各事業主体作製の縮尺1/1,000・1/2,000・1/2,500の地形図を基とした。

2 本書第2章における周知の埋蔵文化財包蔵地、埋蔵文化財包蔵推定地及びトレンチ配置図の用例は次のとおりである。

- (1) : 保存協議を要すると判断した範囲
- (2) : 未試掘範囲
- (3) : 未確定範囲
- (4) : 遺構・遺物が確認できなかった範囲
- (5) : 遺構・遺物が確認できたトレンチ
- (6) : 遺構・遺物が確認できなかったトレンチ
- (7) : 工事予定範囲
- (8) : 周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲
- (9) : 分布調査による埋蔵文化財包蔵推定地の範囲

3 埋蔵文化財包蔵推定地の名称は便宜上アルファベットの「B」と算用数字を組合せて表記するが、試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり、新たに遺跡名称を付している。

4 各遺跡の呼び方は、『日本地名大辞典7福島県』(角川書店)収録の「小字一覧」にならったが、通称が定着しているときは、それに従った。

5 遺構図の用例は次のとおりである。

- (1) 平面図の縮尺は、基本的に各挿図版の右下(スケール右側)に記した。
- (2) 検出した遺構は、網点で表示した。
- (3) 土色の判定に際しては、『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)を用いた。

6 本書で使用した略号は、次のとおりである。

T	: トレンチ	L	: 遺構外堆積土	ℓ	: 遺構内堆積土	SI	: 竪穴住居跡
SK	: 土 坑	SG	: 焼土遺構	SD	: 溝 跡	P	: 小 穴
CG	: 下 郷 町	YZ	: 柳 津 町	KY	: 金 山 町	CY	: 郡 山 市
SM	: 相 馬 市	IT	: 飯 館 村	KM	: 川 俣 町		

目 次

第1章 県内遺跡分布調査の概要	1
第2章 試掘・確認調査	4
第1節 地域高規格道路（会津縦貫南道路）建設予定地	4
1 下郷町の遺跡 CG-B10 [中妻新田遺跡] (4)	
第2節 一般国道49号会津防災事業予定地	8
1 柳津町の遺跡 YZ-AB, B1 (8)	
第3節 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）予定地	9
1 金山町の遺跡 中丸城跡（第2次調査）(10)	
第4節 阿武隈川上流大規模災害対策事業（御代田・徳定地区）予定地	12
1 郡山市の遺跡 徳定A・B遺跡 (12)	
第3章 分布調査	17
第1節 阿武隈川上流大規模災害対策事業予定地	17
第2節 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業予定地	19
第4章 総 括	24
報告書抄録	27

挿図・表・写真目次

【挿 図】

第1章	
図1 県内道路分布調査位置図	1
第2章	
図2 地域高規格道路(会津縦貫南道路)位置図	4
図3 下郷町の遺跡	5
図4 C G - B 10 トレンチ配置図	6
図5 C G - B 10 検出土構・土層	6
図6 C G - B 10 出土遺物	7
図7 一般国道49号会津防災事業	8
図8 Y Z - A B, B 1 トレンチ配置図	9
図9 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)	10
図10 金山町の遺跡	11
図11 中央城跡トレンチ配置図	11
図12 郡山市の遺跡	12
図13 徳定 A・B 遺跡トレンチ配置図	13
図14 徳定 A・B 遺跡検出土構(1)	15
図15 徳定 A・B 遺跡検出土構(2)、土層、出土遺物	16

【表】

第1章	
表1 地域高規格道路(会津縦貫南道路)試掘・確認調査 遺跡一覧	2・3
表2 一般国道49号会津防災事業試掘・確認調査 遺跡一覧	2・3
表3 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)試掘・確認調査 遺跡一覧	2・3
表4 阿武隈川上流大規模災害対策事業(御代田・徳定地区) 試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
第2章	
表5 C G - B 10 トレンチ一覧	5
表6 徳定 A・B 遺跡トレンチ一覧	14

【写 真】

第2章	
1 C G - B 10 遺蹟(北から)	5
2 C G - B 10 22 T 土坑検出(南から)	5
3 C G - B 10 28 T 検出土構検出(南西から)	5
4 徳定 A・B 遺跡東部の現況(南から)	12
5 徳定 A・B 遺跡 8 T 検出土構(南から)	14
6 徳定 A・B 遺跡 13 T 住居跡検出(北から)	14

第3章

図16 阿武隈川上流大規模災害対策事業	17
図17 阿武隈川上流大規模災害対策事業工区内の遺跡(1)	18
図18 阿武隈川上流大規模災害対策事業工区内の遺跡(2)	18
図19 東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業	19
図20 東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業予定地と 遺跡(1)	21
図21 東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業予定地と 遺跡(2)	22
図22 東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業予定地と 遺跡(3)	23
図23 東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業予定地と 遺跡(4)	23

第4章

図24 中妻新田遺跡の範囲	26
---------------	----

第3章

表7 阿武隈川上流大規模災害対策事業間連遺跡一覧	17
表8 東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業間連 遺跡一覧	20

第4章

表9 地域高規格道路(会津縦貫南道路)事業試掘・確認調査 対象遺跡成果一覧(下郷町)	24
表10 一般国道49号会津防災事業試掘・確認調査対象遺跡 成果一覧(柳津町)	25
表11 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)試掘・確認調査 対象遺跡成果一覧(金山町)	25
表12 阿武隈川上流大規模災害対策事業試掘・確認調査対象遺跡 成果一覧(郡山市)	26
表13 埋蔵文化財包蔵地(新規・変更)一覧	26

第3章

7 南川田遺跡現況(南から)	18
8 黒田遺跡現況(北東から)	18
9 殿平B遺跡現況(南から)	20
10 鳥上遺跡現況(北東から)	20
11 北ノ作遺跡現況(南から)	20
12 道ノ内遺跡現況(東から)	20
13 SM-K R, B 1 現況(北から)	20
14 I T - K R, B 1 現況(南から)	20
15 KM-K R, B 1 現況(南から)	21
16 KM-K R, B 2 現況(南西から)	21

第1章 県内遺跡分布調査の概要

令和2年度は、地域高規格道路(会津縦貫南道路)、一般国道49号会津防災事業、只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)、阿武隈川上流大規模災害対策事業の4事業(1市3町)についての試掘・確認調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託して実施した。

【地域高規格道路(会津縦貫南道路)】

下郷町における計画路線内(湯野上バイパス)の1箇所、11,000㎡の埋蔵文化財包蔵推定地を対象に試掘調査を実施した。その結果、CG-B10[中妻新田遺跡]で遺構・遺物を確認した2,500㎡について保存協議を要する範囲とした。

なお、会津縦貫南道路の湯野上バイパス区間については、試掘・確認調査はすべて終了した。

【一般国道49号会津防災事業】

柳津町における計画路線内の1箇所、1,400㎡の埋蔵文化財包蔵推定地を対象に試掘調査を実施した。保存対象箇所は確認できなかった。

【只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)】

金山町における計画地内の1箇所、2,100㎡の周知の埋蔵文化財包蔵地を対象に確認調査を実施した。その結果、中丸城跡において遺構(小穴)を確認したが、時期が不明で建物としての配列が認められないことから保存対象外とした。

なお、未調査範囲についても、現地協議において保存対象外と判断した。

【阿武隈川上流大規模災害対策事業(御代田・徳定地区)】

郡山市における計画地内の1箇所、計23,500㎡の周知の埋蔵文化財包蔵地を対象に確認調査を実施した。その結果、徳定A・B遺跡で遺構・遺物を確認した11,000㎡について保存協議を要する範囲とした。

【分布調査】

阿武隈川上流大規模災害対策事業の郡山市～須賀川市における計画地内の4地点、面積17haを対象に分布調査を実施した。その結果、周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所を確認した。

また、東北東京間連系線(広域連系南幹線新設)事業の相馬市・伊達市・飯館村・川俣町・二本松市・田村市・葛尾村における計画地内の74地点、面積10.7haを対象に分布調査を実施した。その結果、周知の埋蔵文化財包蔵地4箇所、埋蔵文化財包蔵推定地4箇所を確認した。



図1 県内遺跡分布調査位置図

表1-1 地域高規格道路（会津縦貫南道路）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和2年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンナ		
						本数	掘削面積 (㎡)	割合
C G-B 10	下郷町中妻字新田乙	河岸段丘	R 2.61～6.19	11,000	11,000	29	574.5	5.2%
地域高規格道路（下郷町） 合計（1）				11,000	11,000	29	574.5	5.2%

表2-1 一般国道49号会津防災事業試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和2年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンナ		
						本数	掘削面積 (㎡)	割合
Y Z-AB, B 1	柳津町大字藤字船ヶ峯	丘陵	R 2.720～7.31	1,400	1,400	4	30.0	2.1%
一般国道49号会津防災事業（柳津町） 合計（2）				1,400	1,400	4	30.0	2.1%

表3-1 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和2年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンナ		
						本数	掘削面積 (㎡)	割合
中丸城跡	金山町大字横田	丘陵	R 2.824～8.28	9,500	2,100	7	97.0	4.6%
只見川河川整備事業（金山町） 合計（3）				9,500	2,100	7	97.0	4.6%

表4-1 阿武隈川上流大規模災害対策事業（御代田・徳定地区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和2年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンナ		
						本数	掘削面積 (㎡)	割合
徳定A・B遺跡	郡山市田村町御代田、徳定	自然堤防	R 2.127～12.18	23,500	23,500	27	427.0	1.8%
阿武隈川上流大規模災害対策事業（郡山市） 合計（4）				23,500	23,500	27	427.0	1.8%
令和2年度試掘・確認調査遺跡 総合計(1)+(2)+(3)+(4)				45,400	38,000	67	1,128.5	3.0%

【注】：表中のトレンナ内の％は、今年度の試掘・確認調査対象面積に対するトレンナ掘削面積の割合を示す。

表 1-2 地域高規格道路（会津縦貫南道路）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和2年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
C G - B 10	土坑・焼土遺構	縄文土器・石器	保存	2,500	0	中栗新田道路として登録 試掘調査終了
地域高規格道路（下郡町） 合 計（1）				2,500	0	

表 2-2 一般国道49号会津防災事業試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和2年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
Y Z - AB, B 1	なし	なし	保存なし	0	0	試掘調査終了
一般国道 49 号会津防災事業（柳津町） 合 計（2）				0	0	

表 3-2 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和2年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
中丸城跡	小穴	なし	保存なし	0	5,800	未試掘範囲を含め、終了
只見川河川整備事業（金山町） 合 計（3）				0	5,800	

表 4-2 阿武隈川上流大規模災害対策事業（御代田・徳定地区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和2年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
徳定 A・B 遺跡	堅穴住居跡・土坑・溝跡・傾跡・小穴	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶器・かわらけ・石製品・鉄製品	保存	11,000	0	確認調査終了
阿武隈川上流大規模災害対策事業（郡山市） 合 計（4）				11,000	0	
令和2年度試掘・確認調査遺跡 総合計（1）+（2）+（3）+（4）				13,500	5,800	

第2章 試掘・確認調査

第1節 地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設予定地

地域高規格道路(会津縦貫南道路)は、会津地方の南北軸となる国道121号の機能を強化することにより、地域の活性化を図ることを目的に計画が進められている自動車専用道路である。会津若松市から南会津郡下郷町を経て、南会津郡南会津町に至る総延長50kmの地域高規格道路で、将来的には北は山形県米沢市と、南は栃木県日光市と結ばれる計画となっている。福島県が事業主体となり、平成14年度に小沼崎バイパス1.5km、平成19年度には湯野上バイパス8.3kmが一般国道改良事業として着手された。このうち湯野上バイパスは、平成24年度から国土交通省の直轄権限代行事業として進められている。

会津縦貫南道路に関する埋蔵文化財の調査は、平成18・19年度に小沼崎・湯野上バイパスの約9.8kmの分布調査を実施し、12箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地を確認した(『福島県内遺跡分布調査報告13・14』)。その後、平成24・26・27・29年度に試掘・確認調査を実施している(『福島県内遺跡分布調査報告20・22・23・25』)。また、平成27・30年度及び令和元・2年度に栗林遺跡、平成28年度に瀧ノ入遺跡、平成30年度に下居平乙遺跡の本発掘調査を実施している。

本年度は、下郷町中妻地区における埋蔵文化財包蔵推定地1箇所を試掘調査を実施した。

1 下郷町の遺跡

CG-B10〔中妻新田遺跡〕

所在地 下郷町大字中妻字新田

調査対象面積 11,000㎡

保存面積 2,500㎡

検出遺構 土坑・焼土遺構

出土遺物 縄文土器・石器・石製品

〔概要〕 CG-B10は、平成19年度の分布調査で新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。

阿賀川支流の観音川北岸の河岸段丘上に立地し、現状は山林である。本年度の試掘調査は、工区内の11,000㎡を対象に、トレンチ29本を設定して行った。

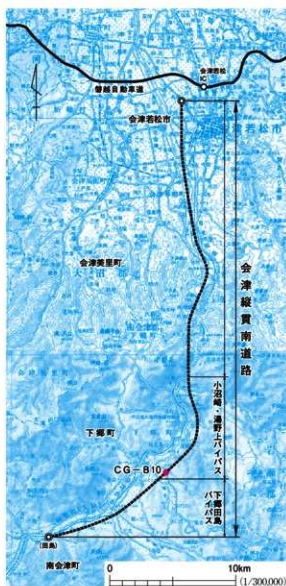


図2 地域高規格道路(会津縦貫南道路)位置図



図3 下郷町の遺跡

表5 CG-B10トレンチ一覧

トレンチ 番号	検出遺構			出土遺物
	種 類 (時 代)	確認向ま での深さ	遺構内 掘込み	
16T				縄文土器
17T				石器
19T	焼土遺構1 (縄文)	15cm	×	縄文土器
20T				縄文土器
22T	土坑1 (縄文)	45cm	○	縄文土器・石製品
24T				石器
28T	焼土遺構1 (縄文)	35cm	×	



1 CG-B10遠景 (北から)



2 CG-B10 22T土坑検出 (南から)



3 CG-B10 28T焼土遺構検出 (南西から)

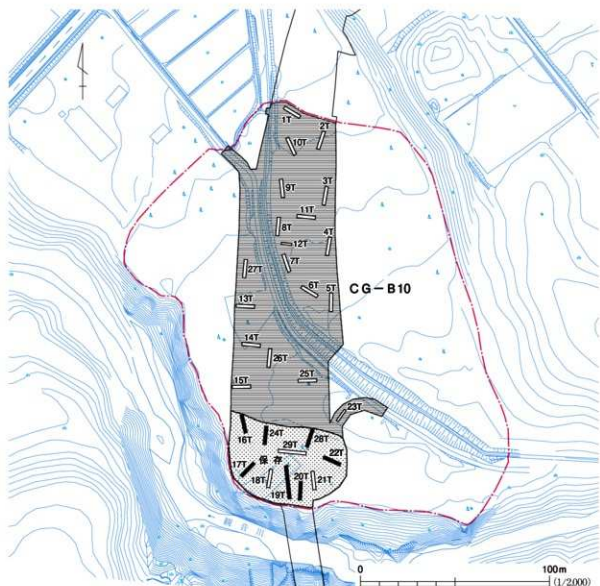


図4 CG-B10トレンチ配置図

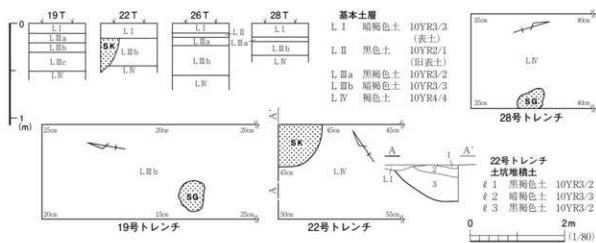


図5 CG-B10検出遺構・土層

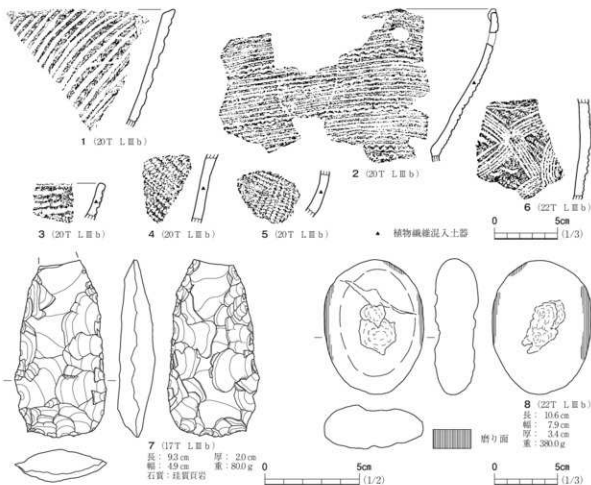


図6 CG-B10出土遺物

【遺構・遺物】遺構は、19・28Tで焼土遺構が各1基ずつ、22Tでは土坑1基を確認した。これらの遺構はすべて、縄文土器が出土するLⅢで検出されることから、同時代の所産と推定される。

遺物は縄文土器70点、石器3点、石製品1点がLⅢから出土した。このうち、縄文土器6点、石器1点、石製品1点を図6に掲載した。

図6-1は、器面全体に斜め方向の沈線を施す口縁部破片で、口唇部が内割さ状を呈することから、縄文時代早期中葉の土器と考えられる。同図2は、器面に平行沈線文、コンパス文及び波状文が多段に施される波状口縁の深鉢で、胎土に植物繊維混和痕が観察されることから縄文時代前期前葉の土器と考えられる。

また、同図3は口縁部直下に多段の押し文、同図4・5は縄文地文が施される土器で、同図2と同様に、胎土に植物繊維混和痕が観察されるため、当該期の土器の可能性が高い。同図6は、縄文施文後に櫛歯状工具による沈線及び刺突文が施される土器で、沈線が多用されることから縄文前期後葉～末葉の関東系の土器の可能性が考えられる。なお、出土土器の多くは、縄文時代前期前葉のものである。

図6-7は、縦長剥片を加工した石笥である。同図8は、周囲に磨り面が認められる凹石である。

【まとめ】試掘調査の結果、遺構・遺物を確認した16・17・19・20・22・24・28Tを中心とした範囲(2,500m²)については、保存協議を要する範囲とした。

なお、今回の調査で、工区内におけるCG-B10のすべての試掘調査は終了し、中妻新田遺跡と呼称することとした。保存範囲については、2,500m²とした。

第2節 一般国道49号会津防災事業予定地

一般国道49号会津防災事業は、平成31年策定の一般国道49号改築工事計画に基づき、河沼郡柳津町藤地区～耶麻郡西会津町陸合地区の線形隘路区間の回避及び冬期通行障害による道路寸断に対する代替路の確保など、安全で円滑な交通の確保を目的とする防災事業である。現在、国土交通省東北整備局郡山国道事務所が事業を進めている。

本年度は、柳津町藤地区における埋蔵文化財包蔵推定地1箇所の試掘調査を実施した。

1 柳津町の遺跡

YZ-AB. B1

所在地 柳津町大字藤字鶴ヶ峯

調査対象面積 1,400㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】 YZ-AB. B1は、令和2年度の現地協議で新たに確認された埋蔵文化財包蔵推定地である。阿賀川支流の不動川左岸の河岸段丘上に立地し、現状は山林である。

本年度の試掘調査は、工区内の1,400㎡を対象に、トレンチ4本を設定して行った。

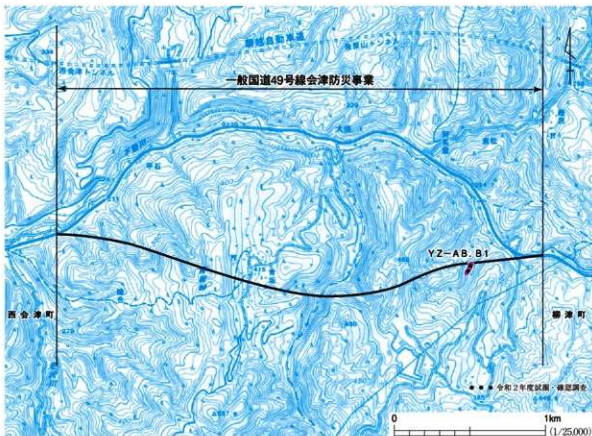


図7 一般国道49号会津防災事業

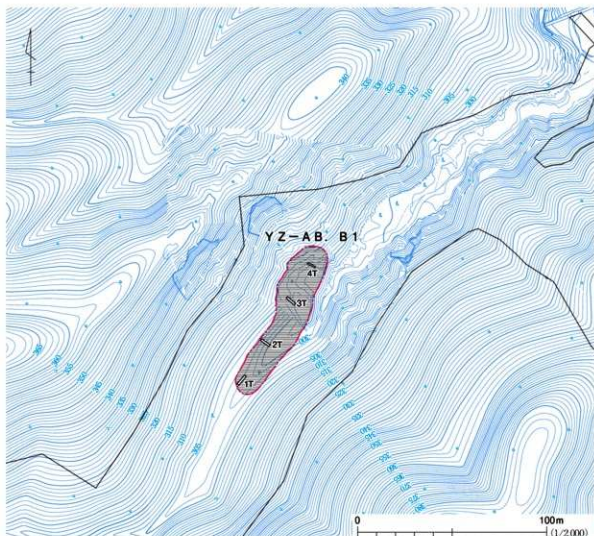


図8 YZ-AB, B1トレンチ配置図

【ま と め】 試掘調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は保存対象外と判断した。

なお、今回の調査をもって、YZ-AB, B1のすべての試掘調査は終了した。

第3節 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）予定地

只見川河川整備事業は、平成23年7月27日～30日の新潟・福島豪雨で甚大な洪水被害を受けた流域5町（会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、只見町）の計24地区を対象に、新たな堤防の整備や川幅の拡幅を実施するものである。現在、福島県土木部会津若松建設事務所が会津坂下町～金山町の20地区、福島県土木部南会津建設事務所が只見町の4地区の事業を進めている。

本事業に係る分布調査は、平成30年度に会津坂下町片門地区～金山町滝沢地区を対象に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地9箇所及び、新規の埋蔵文化財包蔵推定地11箇所を確認した（「福島県内遺跡分布調査報告26」）。その後、越川地区の工事計画の変更により、埋蔵文化財包蔵推定地1箇所（KY-B6）を追加した。

令和元年度は、中丸城跡及びKY-B6の試掘・確認調査を実施したが、いずれも調査対象面積の一部で



図9 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）

あるため、保存範囲は確定できなかった（『福島県内遺跡分布調査報告27』）。

本年度の確認調査は、金山町横田地区における周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所を実施した。

1 金山町の遺跡

中丸城跡（第2次調査）

所在地 金山町大字横田

調査対象面積 2,100㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 小穴

出土遺物 なし

【概要】 中丸城跡は、中世山ノ内氏の支配拠点であり、只見川沿いの伊夜彦神社に隣接する低位段丘面が居館、急峻な背後丘陵が山城に比定されている（『金山町の文化財』）。

昨年度の第1次調査は、6Tで小穴を確認したが、工区内の対象面積に対する確認調査面積が小さいことから、次年度以降の確認調査の結果を見て調査区内の保存について判断することとなった。

本年度の確認調査は、工区内の低位段丘面2,100㎡を対象にトレンチ7本（8～14T）を設定して実施した。

【まとめ】 調査の結果、小穴を3基確認したが、いずれも時期が不明で建物としての配列が認められないことから保存対象外とした。なお、未調査範囲については、国道252号北側の工区内で大規模な削平が確認されたこと、また、同国道南側の工区南東部については、山裾を削平して宅地造成を行っていることが明らかになった。このため、現地協議では、調査範囲及び未調査範囲も含めて保存対象外と判断した。

なお、未調査範囲の5,800㎡は、遺構の広がりが見定できないことから、現地協議で保存対象外と判断した。このため、中丸城跡予定地内のすべての確認調査は本年度で終了した。

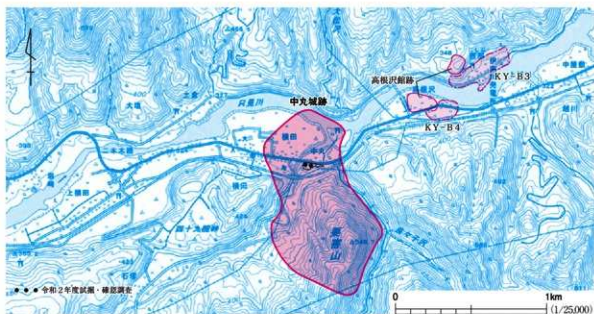


図10 金山町の遺跡

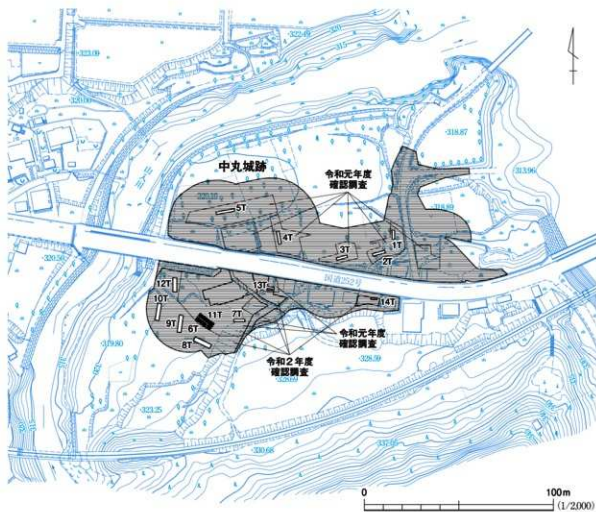


図11 中丸城跡トレンチ配置図

第4節 阿武隈川上流大規模災害対策事業（御代田・徳定地区）予定地

阿武隈川上流大規模災害対策事業は、令和元年の台風19号に伴う洪水で甚大な被害を受けた流域地区を対象に、河道狭窄部において流量を確保するために、河道の掘削を実施するものである。現在、国土交通省東北整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。

本事業に係る分布調査は、今年度実施（第3章参照）し、周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所を確認した。試掘・確認調査は、今年度から実施した。本年度の確認調査は、郡山市田村町字御代田・徳定地区における周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所を対象に実施した。また、この周囲では、阿武隈川上流河川改修事業による築堤工事に伴う徳定A・B遺跡の確認調査が実施済である（『福島県内遺跡分布調査報告25～27』）。

1 郡山市の遺跡

徳定A・B遺跡

所在地 郡山市田村町字御代田・徳定

調査対象面積 23,500㎡

保存面積 11,000㎡

検出遺構 竪穴住居跡・土坑・溝跡・畑跡・小穴

出土遺物 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・かわらけ・陶器・石製品・鉄製品

【概要】 徳定A・B遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地である。昭和47・50・51年度に、福島県教育委員会が東北新幹線建設に伴う発掘調査を実施し、



4 徳定A・B遺跡東部の現況（南から）



図12 郡山市の遺跡

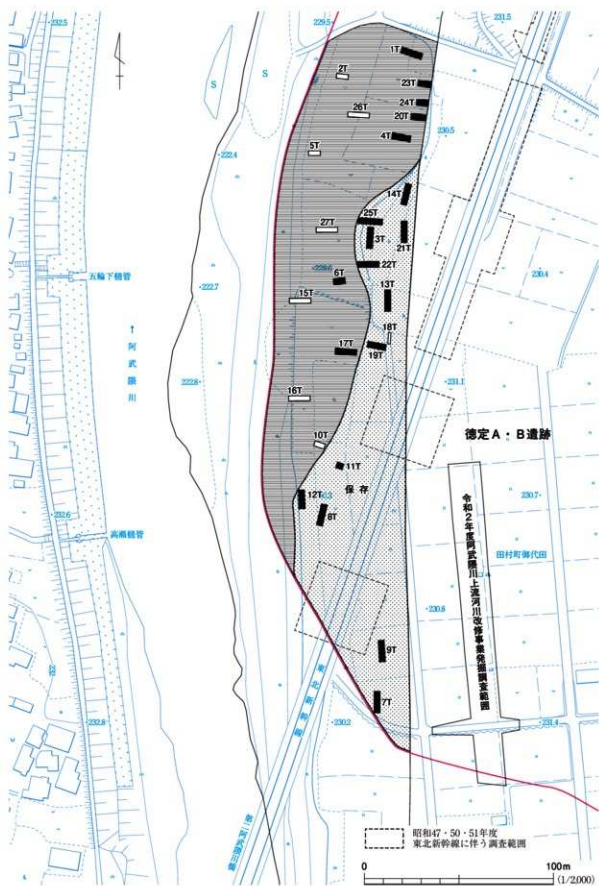


図13 徳定A・B遺跡トレンチ配置図

〔東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅲ〕、平成17年度以降は、郡山市教育委員会が徳定地区土地区画整理事業に伴う確認調査及び発掘調査を継続的に実施している(『徳定A・B遺跡—第1・2次発掘調査報告—』ほか)。また、本年度阿武隈川上流河川改修事業の築堤工事に伴う3,000㎡の発掘調査を実施し、古代・中世の遺構・遺物が検出されている(令和4年度報告予定)。その結果、古墳時代～平安時代を主体とした福島県を代表する集落跡に位置付けられている。現況は水田・宅地・荒地である。

本年度の確認調査は、工区内の23,500㎡を対象に、トレンチ27本を設定して行った。

〔遺 構〕 遺構は7T～9T、11T～14T、21T・22T・25Tで確認した。遺構が確認できる地形は、調査区東部から南東部にかけての標高230mの平坦地に限られると考えられる。

調査区東部で検出した遺構は、13Tで住居跡1軒、小穴5基、14Tで土坑1基、21Tで住居跡1軒、土坑1基、小穴3基、22Tで土坑1基、小穴1基、25Tで溝跡1条、小穴2基を確認した。このうち、13Tと21Tの住居跡、21Tと22Tの土坑の時期については、出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。この他の遺構についても、遺構内堆積土が近似することから、当該期の可能性が考えられる。また、調査区中央部で確認した遺構は、8Tで畑跡8条、11T・12Tで畑跡を各2条確認した。これらの畑跡の時期については、本年度の発掘調査の成果から中世もしくは古墳時代の可能性が考えられる。

調査区南部で確認した遺構は、7Tから溝跡1条、9Tから土坑7基、小穴23基である。7Tで確認した溝跡は、幅が約26mを測り、本年度の発掘調査で検出した溝跡に連続する可能性が考えられる。この溝跡の時期は、出土し

表6 徳定A・B遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種 類 (時 代)	確認調査 での深さ	遺構内 掘込み	
1 T				土師器
3 T				縄文土器・土師器・ 耳環
4 T				土師器
6 T				土師器
7 T	溝跡1 (中世)	70cm	○	土師器・埴巻器・ かわらけ
8 T	畑跡8 (古墳又は中世)	80cm	○	土師器
9 T	土坑7・小穴23 (古墳又は中世)	20cm	○	弥生土器・土師器・ 埴巻器・かわらけ・ 鉄製品
11 T	畑跡2 (古墳又は中世)	30cm	○	土師器
12 T	畑跡2 (古墳又は中世)	140cm	×	土師器
13 T	住居跡1・小穴5 (古墳)	40cm	○	土師器・埴巻器・ 紡績車
14 T	土坑1	60cm	○	土師器・陶器・ 滑石片
17 T				土師器
19 T				土師器
20 T				土師器・埴巻器
21 T	住居跡1・土坑1・ 小穴3	35cm	○	土師器・鉄製品
22 T	土坑1・小穴1	25cm		土師器・埴巻器
23 T				土師器
24 T				土師器
25 T	溝跡1・小穴2	25cm		土師器・埴巻器



5 徳定A・B遺跡 8T畑跡検出(南から)



6 徳定A・B遺跡 13T住居跡検出(北から)

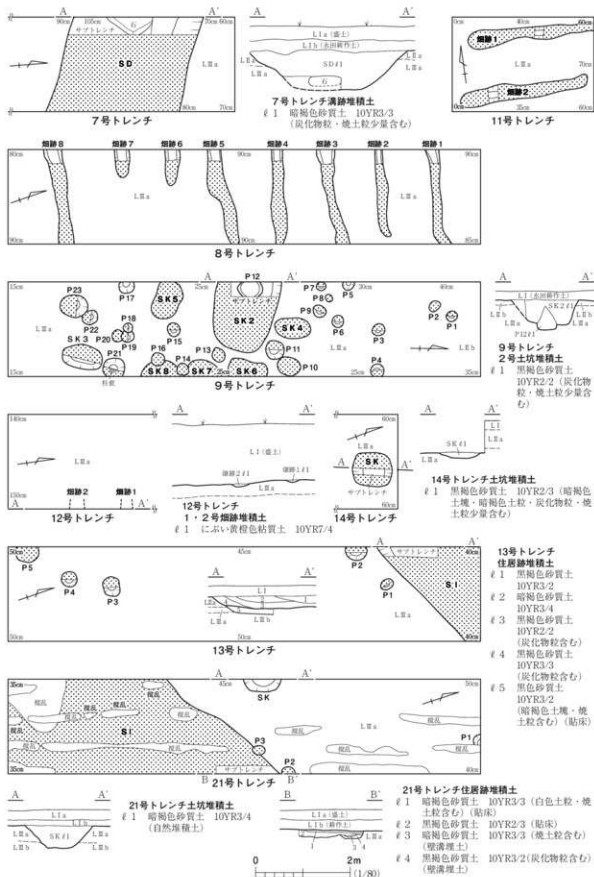


図14 徳定A・B遺跡跡出遺構(1)

たかわりから中世と考えられる。また、9 Tについては、現地表面から20cm下で土坑と小穴が集中して検出された。これらの遺構の時期については、東側に隣接する本年度の発掘調査で確認した遺構の検出状況に近似するため、中世もしくは古墳時代と推測される。

【遺物】遺物は、L I・IIから縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・かわらけ・陶器・石製品・鉄製品が出土したが、主体となるのは、古墳時代の土師器・須恵器である。このうちの一部を図15に掲載した。図15-1は弥生時代中期の平行沈線文を施す長頸壺、同図2は須恵器甕の破片である。同図3は滑石製の紡錘車である。紡輪の中央には直径6mmの貫通孔が穿たれている。同図4は鉄製の耳環である。鉄輪の外面上には、金剛貼などの痕跡は確認できなかった。3・4の時期については、その周囲から古墳時代後期の土器が多く出土することから当該期の可能性が考えられる。

【まとめ】調査の結果、遺構・遺物が確認された3・7～9・11～14・19・21・22・25Tを中心とした範囲及び、両側で遺構が確認された新幹線高架付近については、保存の必要がある。その他の範囲については保存対象外とした。今回の調査で、工区内における徳定A・B遺跡のすべての確認調査は終了した。

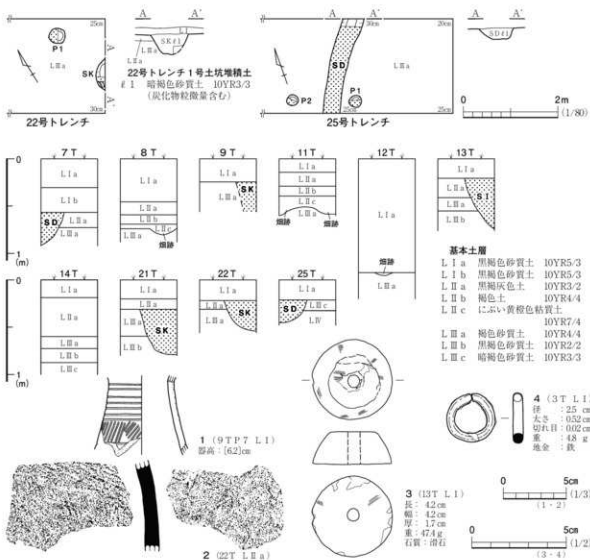


図15 徳定A・B遺跡検出遺構(2)、土層、出土遺物

第3章 分布調査

第1節 阿武隈川上流大規模災害対策事業予定地

阿武隈川上流大規模災害対策事業は、令和元年の台風19号に伴う洪水で甚大な被害を受けた流域地区を対象に、河道狭窄部において流量を確保するために、河道の掘削を実施するものである。現在、国土交通省東北整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。

本年度は、埋蔵文化財に係る調査の初年度であり、郡山市～須賀川市にかけての17haを対象に分布調査を行った。その結果、表7に示した周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所を確認した。このうち黒田遺跡では、令和元年度阿武隈川上流河川改修事業で実施した確認調査範囲と重複し、すでに工区内の保存面積1,800㎡が確定していた。このため、黒田遺跡については、当事業においての確認調査は実施しないこととなった。

表7 阿武隈川上流大規模災害対策事業関連遺跡一覧

No	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積(㎡)	備考
1	南川面遺跡	20360857	郡山市日和田町梅沢	荒地・山林			6,400	周知の埋蔵文化財包蔵地
2	黒田遺跡	20360154	郡山市西田町免生田	荒地	縄文時代		28,900	周知の埋蔵文化財包蔵地
3	徳定A・B遺跡	20360562	郡山市田村町御代田ほか	荒地	古墳時代・中世	土師器・須恵器・鉄滓	31,500	周知の埋蔵文化財包蔵地



図16 阿武隈川上流大規模災害対策事業



図17 阿武隈川上流大規模災害対策事業区内の遺跡（1）



図18 阿武隈川上流大規模災害対策事業区内の遺跡（2）



7 南川面遺跡現況（南から）



8 黒田遺跡現況（北東から）

第2節 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業予定地

東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業は、東北電力管内と東京電力管内を結ぶ50万ボルト地域間連系送電線を新たに建設することで、両電力管内において安定した電力供給・供給信頼度の向上及び地域の発展に貢献することを目的とするものである。現在は、東北電力ネットワーク株式会社が事業を進めている。

本年度は、埋蔵文化財に係る調査の初年度であり、相馬市～田村市にかけての10.7ha、工長約6.4kmを対象に分布調査を行った。その結果、表8に示した周知の埋蔵文化財包蔵地4箇所及び埋蔵文化財包蔵推定地4箇所を確認した。なお、今回提示した周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地については、今後の工事計画の変更などにより、変動する可能性がある。

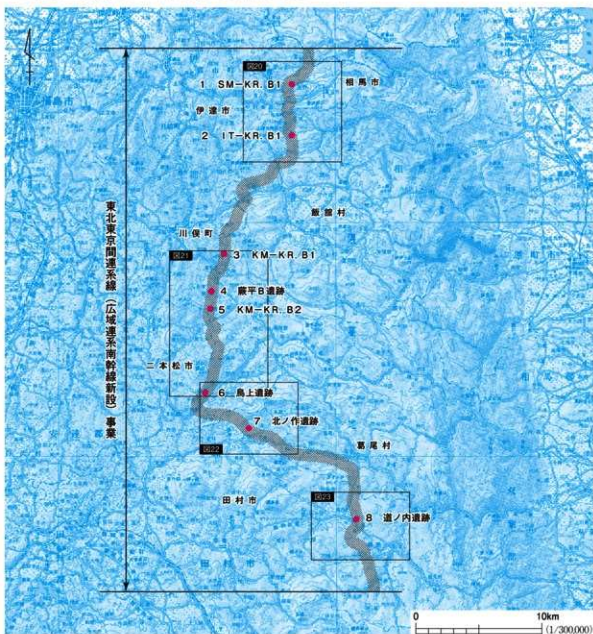


図19 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業

表8 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業関連遺跡一覧

No	遺跡名	遺跡番号	所在地	現況	時代	採取遺物	工区内面積(m ²)	備考
1	SM-KR. B1		相馬市玉野字中平	山林			665	新発見の埋蔵文化財包蔵地
2	IT-KR. B1		飯館村佐須字虎捕	山林			200	新発見の埋蔵文化財包蔵地
3	KM-KR. B1		川俣町小瀬木字殿上久保	荒地			170	新発見の埋蔵文化財包蔵地
4	蔵平B遺跡	30830133	川俣町山木屋字赤壁山	荒地			165	周知の埋蔵文化財包蔵地
5	KM-KR. B2		川俣町山木屋字沼カイリ山	山林			130	新発見の埋蔵文化財包蔵地
6	鳥上遺跡	21090295	二本松市田沢字鳥上	山林			640	周知の埋蔵文化財包蔵地
7	北ノ作遺跡	21100408	田村市船引町上移字北ノ作	畑地			140	周知の埋蔵文化財包蔵地
8	道ノ内遺跡	21170267	田村市郡踏町岩井沢字道ノ内	牧草地			670	周知の埋蔵文化財包蔵地



9 蔵平B遺跡現況（南から）



10 鳥上遺跡現況（北東から）



11 北ノ作遺跡現況（南から）



12 道ノ内遺跡現況（東から）



13 SM-KR. B1 現況（北から）



14 IT-KR. B1 現況（南から）



15 KM-KR. B1現況（南から）



16 KM-KR. B2現況（南西から）



図20 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業予定地と遺跡（1）

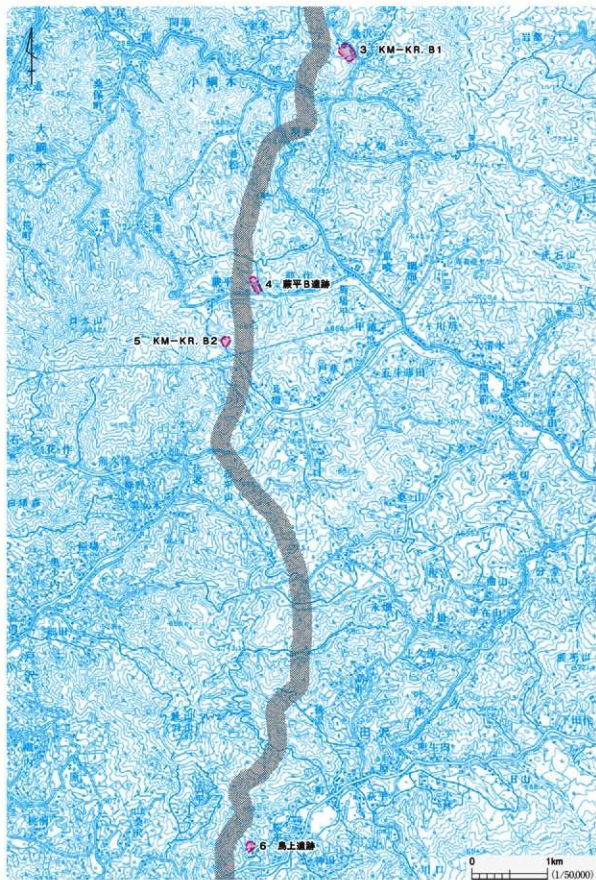


図21 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業予定地と遺跡（2）

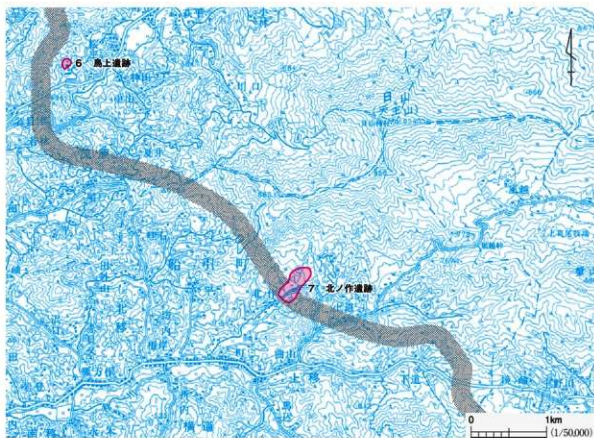


図22 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業予定地と遺跡（3）

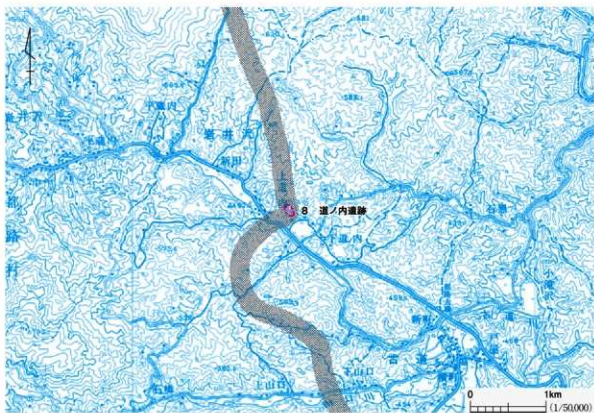


図23 東北東京間連系線（広域連系南幹線新設）事業予定地と遺跡（4）

第4章 総 括

令和2年度は、試掘・確認調査を4事業(1市3町)の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地で実施した。これらの調査は、令和2年6月上旬から12月中旬の期間で行った。試掘・確認調査の結果、計2箇所 で保存を要する範囲が確定した。保存を要する範囲が確定した埋蔵文化財包蔵地のうち、CG-B10[中妻新田遺跡]については令和3年度に発掘調査を実施する予定である。

以下、令和2年度の調査成果をまとめたが、今後の工事計画変更等により、工区内面積等は変動する可能性がある。

1 地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設予定地

会津若松市から下郷町を経由し、南会津町に至る地域高規格道路として計画されている会津縦貫南道路は、これまでに若松西バイパス、小沼崎バイパス、湯野上バイパス、下郷田島バイパスの4区間に分かれて事業が進められてきた。

このうち、下郷町地内の小沼崎・湯野上バイパスについては、平成18・19年度に分布調査を実施し、平成24・26・27・29年度には7箇所 で試掘・確認調査を行っている。

[下郷町] 同町地内の湯野上バイパスに係る試掘調査は、CG-B10の1箇所 で実施した。その結果、保存を要する範囲(2,500㎡が確認)が確定した。また、本年度でCG-B10の試掘調査を終了した。以上により、湯野上バイパス区間内の試掘・確認調査を全て終了した。

表9 地域高規格道路(会津縦貫南道路)事業試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(下郷町)

No	遺跡名	試掘調査		遺跡工区内面積(㎡)	年度別調査対象面積			未試掘面積(㎡)	保存面積(㎡)	備 考
		終	未		年度	面積(㎡)	報告書			
1	CG-B13 [下居平乙]	●		12,000	H26	600	[限内分22]	0	0	H29下居平乙遺跡として新規登録 H29保存(1,660㎡)はH27未確定の一部を含む H30(1,200㎡)本発掘調査実施
					H27	2,800	[限内分23]		150	
					H29	8,600	[限内分25]		1,050	
2	遺入	●		7,200	H27	5,600	[限内分23]	0	4,000	H28(4,000㎡)本発掘調査実施
3	栗林	●		10,200	H24	8,200	[限内分20]	1,850	5,000	H27(1,600㎡)本発掘調査実施 未試掘1,850㎡はH30協議により保存と判断 H30～R2工区変更による保存面積変更及び本発掘調査実施
4	CG-B11	●		7,000	H27	4,700	[限内分23]	0	0	
					H29	2,000	[限内分25]		0	
5	辻通下	●		3,700	H27	700	[限内分23]	0	0	
					H29	2,900	[限内分25]		0	
6	辻通	●		900	H29	2,300	[限内分25]	0	0	同一地形の工区外(1,400㎡)を含め確認調査
7	CG-B9	●		5,100	H29	5,100	[限内分25]	0	0	
8	CG-B10 [中妻新田]	●		11,000	R2	11,000	(4頁)	0	2,500	中妻新田遺跡として新規登録
下郷町 計	8	0	0	57,100	終了	54,500			1,850	未試掘1,850㎡は保存と判断
					R2	11,000			2,500	

2 一般国道49号会津防災事業予定地

河沼郡柳津町藤地区から耶麻郡西会津町睦合地区において、一般国道49号改築工事として計画されている会津防災事業は、安全で円滑な交通の確保を目的としている。

令和2年4月に実施した現地協議の際、柳津町藤地区において新たに埋蔵文化財包蔵推定地1箇所を確認した。

【柳津町】 同町藤地区に係る試掘調査は、YZ-AB、B1の1箇所で行った。その結果、保存を要する箇所は確認できず、YZ-AB、B1の試掘調査は終了した。

以上より、本事業に係る埋蔵文化財の試掘・確認調査は全て終了した。

表10 一般国道49号会津防災事業試掘・確認調査対象遺跡成果一覧（柳津町）

No	遺跡名	試掘調査			遺跡区内面積(m ²)	年度別調査対象面積		未試掘面積(m ²)	保存面積(m ²)	備考
		終	継	未		年度	面積(m ²)			
1	YZ-AB、B1	●			1,400	R 2	1,400 (8頁)	0	0	
柳津町 計					1,400	終了	1,400	0	0	
						R 2	1,400		0	

3 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）予定地

只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）は、平成23年の新潟・福島豪雨で甚大な被害を受けた流域を対象に、新たな堤防の整備や川幅の拡幅を実施するものである。本事業に係る分布調査は、平成30年度に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地9箇所と新規の埋蔵文化財包蔵推定地11箇所を確認した（『福島県内遺跡分布調査報告26』）。さらに、令和元年度は、越川地区の工区変更により、埋蔵文化財包蔵推定地1箇所を追加した（『福島県内遺跡分布調査報告27』）。試掘・確認調査は、令和元年度に中丸城跡、KY-B6の2箇所で行ったが、保存範囲の有無については、次年度以降の調査結果を待って判断することとした。

【金山町】 同町地区内の只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）に係る試掘・確認調査は、中丸城跡の1箇所で行った。その結果、保存を要する箇所は確認できず、中丸城跡の確認調査はすべて終了した。

表11 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）試掘・確認調査対象遺跡成果一覧（金山町）

No	遺跡名	試掘調査			遺跡区内面積(m ²)	年度別調査対象面積		未試掘面積(m ²)	保存面積(m ²)	備考
		終	継	未		年度	面積(m ²)			
1	KY-B1			●	-					工区範囲未確定
2	KY-B2			●	-					工区範囲未確定
3	稲場遺跡			●	-					工区範囲未確定
4	KY-B6	●			6,400	R 1	900 [限内分布27]	5,500	0	
5	KY-B3			●	-					工区範囲未確定
6	高根沢橋跡			●	-					工区範囲未確定
7	KY-B4			●	-					工区範囲未確定
8	中丸城跡	●			9,500	R 1 R 2	2,600 2,100 [限内分布27] (10頁)	5,800	0	未試掘5,800㎡は保存対象外と判断(10頁)調査対象面積には、1,000㎡の重複がある
9	KY-B5			●	-					工区範囲未確定
金山町 計					15,900	終了	5,600	11,300	0	未試掘11,300㎡の内、5,800㎡は保存対象外と判断
						R 2	2,100		0	

4 阿武隈川上流大規模災害対策事業予定地

阿武隈川上流大規模災害対策事業は、洪水被害を受けやすい流域地区を対象に、河道の掘削を実施するものである。本事業に係るのは、周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所である。

【郡山市】 同市市内の阿武隈川上流大規模災害対策事業（御代田・徳定地区）に係る試掘・確認調査は、徳定A・B遺跡の一部工区内を対象に実施した。その結果、保存を要する範囲が(11,000㎡)が確定し、本年

度で徳定A・B遺跡の試掘・確認調査を終了した。以上により、令和3年度以降、試掘・確認調査が必要になるのは計1箇所であり、試掘・確認調査が必要な面積は1,400㎡である。

表12 阿武隈川上流大規模災害対策事業試掘・確認調査対象遺跡成果一覧（郡山市）

No	遺跡名	試掘調査		遺跡工区内		年度別調査対象面積		未試掘面積(㎡)	保存面積(㎡)	備 考
		終 了	未	面積(㎡)	年度	面積(㎡)	報告書			
1	南川面遺跡	●	●	6,000				1,400	0	
2	黒田遺跡	●		28,900	R 1	27,100	[県内分布27] (12頁)	1,800	1,800	令和元年度の確認調査で保存面積が確定済(17頁)
3	徳定A・B遺跡	●		31,500	R 2	23,500			11,000	
郡山市 計		2	0	60,400	終了	50,600		1,400	12,800	
					R 2	23,500			11,000	

5 埋蔵文化財包蔵地の登録

本報告における分布調査及び試掘・確認調査の結果、1件の埋蔵文化財包蔵地を新たに周知した。今後は、以下の内容に基づいて埋蔵文化財の保護を行う。

[下 郷 町]

中妻新田遺跡（中妻新田）

地域高規格道路（会津縦貫南道路）建設予定地内で、埋蔵文化財包蔵推定地CG-B10の試掘調査を実施したところ、縄文時代の土坑や焼土遺構など、埋蔵文化財の存在を確認したため、同一地形を呈し、その広がりが見込まれる範囲を含めて周知の埋蔵文化財包蔵地として新規登録した。登録面積は2,500㎡である。

表13 埋蔵文化財包蔵地（新規・変更）一覧

市町村 コード	遺跡 コード	遺跡名	所 在 地	登録概要	種別	時代	面積	備 考
07362	00150	中妻新田遺跡	下郷町大字中妻新田	新規登録	散布地	縄文	2,500㎡	CG-B10の一部を中妻新田遺跡として登録



図24 中妻新田遺跡の範囲

報告書抄録

ふりがな	ふくしまけんないせきぶんぷちようさほうこく28							
書名	福島県内遺跡分布調査報告28							
シリーズ名	福島県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第551集							
編著者名	福島県教育庁文化財課：善田克史 渡邊貴壽 公益財団法人福島県文化振興財団：國井秀紀							
発行機関	福島県教育委員会 〒960-8688 福島県福島市杉妻町2-16 TEL 024-521-1111							
発行年月日	2022年1月7日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯*1	東経*1	発掘期間	発掘面積*2 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
CG-B10 (中妻新田遺跡)	福島県南会津郡下郷町中妻新田	07362	00150	37°15'14"	139°52'50"	20200601-20200619	574.5	試掘調査
YZ-A・B1	福島県河沼郡柳津町大字藤	07423	なし	37°34'05"	139°42'33"	20200720-20200731	30.0	試掘調査
中丸城跡	福島県大沼郡金山町大字横田	07445	00023	37°23'38"	139°26'55"	20200824-20200828	97.0	確認調査
惣定A・B遺跡	福島県郡山市田村町惣定、高代田	07203	00662	37°21'10"	140°22'20"	20201207-20201218	427.0	確認調査
特記事項	<p>地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設予定地内(下郷町)のCG-B10で試掘調査を実施したところ、縄文時代の遺構・遺物を確認したため、中妻新田遺跡として新規登録し、建設予定地内の2500㎡を保存を要する範囲とした。</p> <p>また、阿武隈川上流大規模災害対策事業(郡山市)の惣定A・B遺跡で確認調査を実施したところ、古墳時代及び中世の遺構・遺物を確認したため、建設予定地内の11,000㎡を保存を要する範囲とした。</p>							
要項	<p>福島県教育委員会令和2年度に実施した、地域高規格道路(会津縦貫南道路)・一般国道49号会津防災事業・只見川河川整備事業・阿武隈川上流大規模災害対策事業予定地内の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵部定地を対象とする試掘・確認調査、並びに阿武隈川上流大規模災害対策事業・東北東海開港系(江城津品南幹線新設)事業の分布調査の報告書である。</p> <p>31,700㎡を対象とした試掘・確認調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所、埋蔵文化財包蔵部定地1箇所の合計面積13,500㎡について保存が必要と判断した(表1～4参照)。また、1件の埋蔵文化財包蔵地を新規に登録した(表13参照)。</p>							

*1: 経緯度数は世界測地系(平成14年4月1日から適用)による。 *2: トレンチ掘削面積を示す。

福島県文化財調査報告書第551集

福島県内遺跡分布調査報告 28

令和4年1月7日発行

発行 福島県教育委員会

〒960-8688 福島市杉妻町2-16

印刷 株式会社山川印刷所

〒960-2153 福島市庄野字清水尻1-10

2022